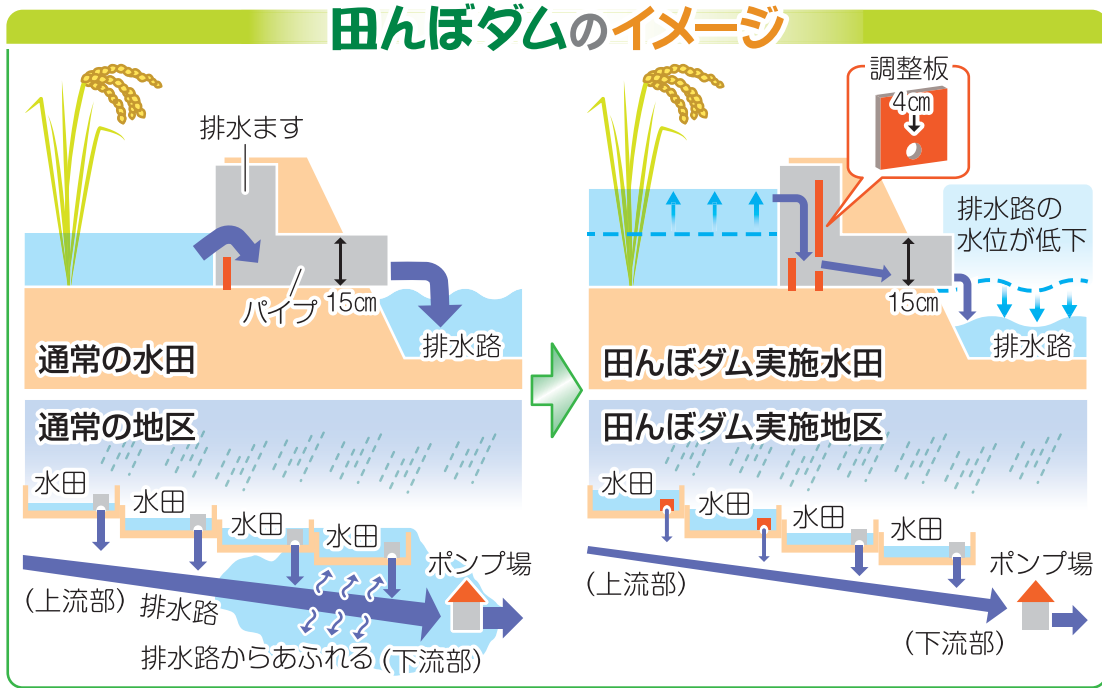


きょうのテーマ

田んぼダムの仕組みって？

ニュース



「田んぼダム」を知っている？ 水田の排水設備に簡単な装置を付けることで、下流の水害を減らせる可能性があるんだって。どんな仕組みなのか、普及に取り組み宮城県の担当者に話を聞いたよ。

田んぼダムは、コメどころの新潟県で生まれたアイデア。大雨が降ったときに雨水を一時的に田んぼにため、下流の地域に流れる水を減らす効果があります。

宮城県農村振興課の佐

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

水害対策 ゆっくり排水



通常の水田の排水(左)より田んぼダムは排水を抑えられる(宮城県のホームページより)

農家は稲の生育や天候に合わせて、田んぼに張る水の深さを変えます。農作業がしやすいよう整備された水田の場合、コンクリート製の升到に直径15センチの排水口が開いていて、ここに板をはめて水位を調整します。

田んぼダムは、排水口の前に直径4センチの穴が開いたプラスチックの調整板をはめ込みます。穴を

藤文彦技術副参事は「宮城県では近年、豪雨による浸水が相次いでいる。すぐに始められる治水策として、田んぼダムを推進しています」と話します。

県は大崎市などと連携して、田んぼダムの普及を進めています。佐藤さんは「堤防を造ったり川を広げたりする治水工事には時間と費用がかかる。農家の理解と協力を得て田んぼダムを広めた」と話します。

田んぼを水浸しにするわけではないんだね。コメ作りだけではない水田の役割を知ろう。



小さくし、下流への排水を抑える仕組みです。あぜ道は高さ約30センチ。田んぼに張る水は最大で約20センチなので、雨水を10センチためられます。作物への影響を避けるため、稲が十分育っていない時期は、田んぼダムは実施しないようにします。

計算では、流れ出る水の量を最大で7〜8割減らせるそう。佐藤さんは「稲を犠牲にして田んぼに水をためるのではなく、ゆっくり排水することで下流の負担を減らすのです」と強調します。

今週の注目ニュース

◇21日(金) あかりの日
1879年のこの日、アメリカのトーマス・エジソンが世界初の実用的な白熱電球を開発したことを記念して、制定されたよ。生活になくてはならないあかり。省エネも考えながら、上手に使っていきいたいね。

かほくの紙面

- 2面 みんなのギモンにこたえるモン
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 かほく防災記者 1期生レポート